

# 寄せ太鼓

第 3 号  
平成 14 年 3 月 1 日発行  
北九州市立長崎街道  
木屋瀬宿記念館  
運営協議会広報部会  
Tel 619-1149

## 運営協議会各部会の紹介

### ○史料館運営部会

～郷土資料館の歩みを振り返って～

史料館運営部会長 水上 裕

オープンして1年3ヶ月、館としても、**史料館運営部会**としても、本当に目まぐるしい毎日でした。みちの郷土資料館の入館者 27,553 人、うち、団体 140 件。文化・歴史研究会、公民館講座、小学校各学年、市・町自治会、歩こう会、観光ボランティア研究会、資料館サークル、デイサービス施設、高等学校、その他各種団体。遠くは、熊本・長崎・下関・豊前・福岡等です。皆それぞれに熱心で、しかも関心が多岐に亘っているので、解説・対応も心せねばならず大変です。そのため史料保存会全員で構成している「史料館運営部会」では、過去6年、毎月1回2時間続けてきた「**学習会**」を今も継続することで、共通理解を確かめ合っているところです。学習に終わりはありません。現会員 20 名前後です。

その他、実は旧資料館当時から、特に団体で**町並み案内**希望が増え、守備範囲外でしたけれど、応じてきましたが、今も月3～4件引き受けています。夏の暑い時、冬の寒い時も断る訳にゆきません。マイクで50人を連れて歩きます。オープン当初から記念館として**町並み案内ボランティア**を公募したのですが、未だ見込みに不足で再公募しているところです。希望の方が多ければ幸いと念じています。

開館から1年の間に、みちの郷土史料館・企画展示室での展覧会を7回、文化講演を2回実施しました。今後も様々な企画を行う予定です。

### ○委員の紹介

部会長 水上 裕

委員 山本 政史、井上 昭太郎、北崎 正、阿部 孝敏、松尾 富士夫、田代 仁人  
松尾 良美、小河内 勝次、森本 道昭、佃 道郎、国友 千昭、高崎 尚康、  
今村 陽子、高倉 民子、藤 スズ子、和田 亀男 (順不同)

## 木屋瀬宿記念館の利用状況

平成13年1月1日に開館して以来、皆様のおかげを持ちまして、1周年を迎えることができました。ありがとうございます。

この1年間に、みちの郷土史料館は、27,553人、こやのせ座は21,318人、合計48,871人の利用がありました。

記念館運営協議会及び記念館事務局は平成14年も様々な企画を行う予定です。みなさん、是非木屋瀬宿記念館をご利用ください。なお、月別の利用者数は次のとおりです。

	みちの郷土史料館	こやのせ座		みちの郷土史料館	こやのせ座
1月	12,300	12,432	7月	855	930
2月	2,548	829	8月	683	983
3月	2,353	1,453	9月	855	435
4月	1,631	989	10月	1,499	670
5月	2,045	844	11月	1,354	650
6月	1,025	566	12月	405	537

## こやのせ座を利用してみませんか？

こやのせ座は、木屋瀬宿記念館にある多目的小ホールです。

こやのせ座は、記念館の行事を行う日以外、貸館として、一般市民の方にも利用していただけます。

利用方法は、次の3種類があります。

- ① こやのせ座全体の利用
- ② こやのせ座の客席のみの利用
- ③ 客席横の和室のみの利用

特に、②・③については、利用料金を安価に設定しています。

芸術・文化活動の練習・発表会、俳句会や会議などに利用されてはいかがでしょうか。平日は利用可能な日が多くあります。

こやのせ座の予約状況・利用料金等のお問い合わせは、記念館までお願いします。

Tel 619-1149 木屋瀬宿記念館

## 第1回木屋瀬いろは歌留多大会 小学生を中心に、79名が参加

1月14日に、こやのせ座で、「第1回木屋瀬いろは歌留多大会」が開催されました。

歌留多には、小学生67名、中学生・大人12名、合計79名が参加し、熱戦が繰り広げられました。

また、100名以上の見学者も、参加者に、熱い応援を送っていました。

来年も開催を予定していますので、皆さんも是非ご参加ください。



## ○こやのせ座の今後の行事

### 木 屋 瀬 春 席

日 時 4月13日(土) 18:30～

出演者 柳亭 燕路(落語)  
林家 二楽(紙切り)  
前座 1名の合計3名

入場料 一般 1,000円  
小中学生 500円

\*チケットは3月10日から、木屋瀬宿記念館で発売します。早めにお買い求めください。

## 「木屋瀬宿場踊振興保存会」が 平成14年北九州市表彰 (まちづくり部門)を受賞

木屋瀬宿場踊振興保存会が、平成14年北九州市表彰を受賞しました。

保存会は、今年新設された「まちづくり」の部門での受賞で、長年に渡る地道な活動が評価されての受賞でした。

おめでとうございます！

\*「寄せ太鼓」は広報部会の委員が中心となって発行しています。

### 広 報 部 会

部会長 本松 達也

委員 千々和 裕、米永 博實  
野口 靖彦、伊藤 征剛  
矢野 圭樹、北崎 隆喜  
柴田 由美子、小河内 励子

\*故岩尾四十三郎氏著書「ひろき庭」より掲載しています。

いわぬ。

小豆さうに(十一日)

○朝早よう、去日いがいた七草を、デン木とホウチヨウで、たたききむ時「とうとの鳥とにほんの鳥と渡らぬ先に七草はやそ」とうたう  
○おみいさんに七草と餅と入るる

正月(むつき)

筑前木屋瀬  
お祭りのごつつおう(ごちそう)  
その三

# わたしの昔話

大川で遊んだあのころ

この辺のもんは、遠賀川のことを「木屋瀬大川」と呼びよった。木屋瀬の一日は、この大川とともに始まる。

朝起きて、川で顔を洗いよると、川上から石炭船が下ってくる。「おいさん、石炭おくれ」子供の声に、船頭は大きな石炭の塊をポーンとほうる。子供はワツと水の中に飛び込んでそれを取りに行く。女たちは、川辺で洗濯やら障子洗いやら。井戸端会議やないで、川端会議やね。

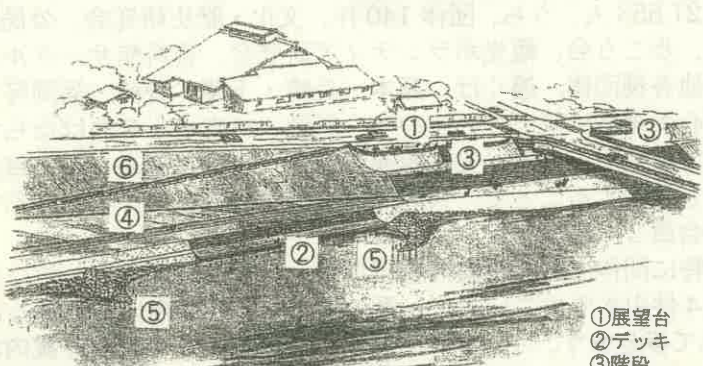
川辺には、投網の名人がおった。川面にキラキラと魚の影が見える。と、網を担いだいなせな若者がつまずいて浅瀬を走って行く。シャーンと網を投げると魚はそれこそ一網打尽。子供心にあこがれとつたよ。

昼間はよう泳ぎよった。釣りもしよった。いちようの木におるケムシの腹ワタを酢につけて糸にする。二メートル位しか取れんやが、これをテグス(釣糸)にすると面白いことよ釣れよった。

夕方になると、川下から白い帆を立てて石炭船が帰ってくる。七輪の煙をなびかせて、歌を歌いながら、

のんびり帰ってくる。わしらは「ごはんぞ」と家のもんが呼びに来るまで遊びよった。木屋瀬は、長崎街道の宿場町として有名やが、わしにとつては大川で過ごしたこまいころのことが忘れられんね。

\* 昭和六十年の市政だより「わたしの昔話」木屋瀬、故柴田豊廣氏の談話より引用しました。



遠賀川河川敷の整備完成予想図(第二区)

- ① 望台
- ② デッキ
- ③ 階段
- ④ 散策路
- ⑤ 沈礁
- ⑥ 坂道

## 木屋瀬地区河道整備工事

現在、遠賀川の河川敷で工事が行われています。工事の内容について、国土交通省遠賀川工事事務所にお伺いしてきました。

### ○工事項目

木屋瀬地区の堤防補強及び河川敷内の整備

### ○工事区間

直方市との市境から下流の九州自動車道までの約一キロ

### ○工事期間

平成十四年三月末まで

### ○工事内容

(中島橋上流)

水制工(船着き場の再現)、散策路の整備、堤防の補強

(中島橋付近)

展望台、木製階段、木製デッキの設置、水制工(沈礁の再現)

散策路の整備、車椅子の利用可能な坂路の設置

(中島橋下流)

散策路、駐車場の整備、石畳階段の設置、水制工(沈礁の再現)

上のイラストは、中島橋付近の完成予想図です。

工事に関するお問い合わせは、遠賀川工事事務所中間出張所 二四五〇一五四 までどうぞ

## 伊馬春部と校歌

昭和二十四年十一月、伊馬春部は四十歳。「向こう三軒両隣り」のラジオドラマが始まって三年目で、全国的に有名になった頃、母校鞍手高等学校(鞍手中)高橋直植校長より校歌の作詞の正式委嘱があり、一年半後、昭和二十六年四月十五日、校歌制定発表会となった。作詞については、彼自身大変誇りに思い、精神的に取り組んだ様子である。これを皮切りとして、校歌・市歌など多く手がけている。

二十七年 筑豊高校校歌

二十八年 植木小学校校歌

二十九年 宮田東中学校校歌

三十三年 折尾高校校歌

三十六年 香月中学校校歌

三十八年 木屋瀬中学校校歌

三十九年 宮田西中学校校歌

四十一年 小竹北小学校校歌

四十五年 青山女子高校校歌

直方小学校校歌

直方学園校歌

五十一年 八児中学校校歌

五十三年 中間市歌

以上十四曲は、伊馬春部生家に設置されているパソコンで視聴できる北九州市近郊のものである。

遠隔地では、栃木県、三重県、石川県、群馬県、横浜市などの校歌も作詞している。

## 一生の記憶に残る

### 恵尼須子供頭の行事

須賀神社宮司 末松 公博

木屋瀬に江戸時代から伝わる由緒ある行事で、男の子が数え年十一才になると地域の若衆の仲間入りする儀式が行われた。武家社会の元服に相当する町方の行事である。

現在では、小学四年生の男子が「かしら」となり、毎年十二月の第一土曜日午後より父兄達が精魂込めて造られた笹山笠を引き廻し、午後三時遠賀川で威勢よくお汐取りをして、社殿でお祓いを受け、記念撮影後父兄がお輿を担ぎ頭の男子はそれぞれ神社に伝わる神具(弓や太刀、駒犬、槍、その他十数類)を奉持し、加勢人の男子が旗指物を風になびかせて、午後四時「とうまれ、とうまれ、旅の客」の唄の合唱と、笛のテープ、太鼓を打ちながら厳かに出発して街を一巡する。

二日目は、午前と午後山笠を全町引き廻し、午後四時頭の皆さんは、お母さん方手づくりのお祝膳をいただく。この祝膳には鯛の頭つきに小豆ご飯、鮎と大根の「こごり」、人参大根の膾が並べられるのが特徴である。又、御神幸や山笠引き加勢の子供達には、味ご飯のおにぎりや菓子袋が配られる。昔はこのおやっ



が楽しみで随分大勢だったが、近年は少数になった。しかし、当業者にとつては、この行事に携わったのを機に、頭同士、父兄同士の絆が一層深まり一生の記憶に残るなごやかな行事である。いずれにしても、戦前・戦中・戦後と一度も欠かしたことはないこの行事は、全国的にも大変稀少な伝承文化で、木屋瀬の里に脈々として受け継がれている。

## 子供多びすについて

奥 智照

昨年十二月一日、二日、私の長男を含む十名の子供が、子供多びす頭を務めました。

この日は、近年になく暖かい日となり、万加勢人、先加勢人、その他多くの子供達の参加の中、主役である頭の子供達は、太鼓に采振り、十日程前からの練習の成果を元氣良く一杯発射していました。

御神輿では、重い神具を大事にかかえ、大きな声で唄を歌い、御座の祝い膳では、鮎のこごりに顔をゆがめる子など微笑ましい光景が見られました。

親としては、我が子が「頭」を迎えたという喜びでいっぱいですが、今の子供達にとつては「大人になるために元服に相当する行事」といつてもピンと来ないかもしれせん。

しかし、氏子総代をはじめ多くの方々の協力と、町の人達に祝って頂いたこの行事に参加した事、そして「木屋瀬の男」となった事、これらの思い出と誇りは、子供達の一生の宝物となる事と思います。

最後になりますが、今回協力頂いた多くの方々に感謝すると共に、私自身、この行事の継続のために今後できる限りの協力をさせていただきます。

## 木屋瀬朝市について

J A 木屋瀬朝市会 今川 雪雄

私共が、木屋瀬朝市を発足したのは、地元で収穫した農産物を、一人でも多くの人に食して頂けたらとの思いから、農協の営農担当者の指導を受け、出来るだけ農産物を使わずに、立派な出来とは云えなくても新鮮な朝取りの野菜を提供したいとの思いからです。幸いに、木屋瀬宿記念館運営協議会の好意により、記念館の催し事に朝市を開かせて貰っています。

私共は、食べる人の気持ちになつて減農薬に気をつけているつもりです。今後も、記念館の催し事に参加させて頂きたいと思っております。

